8

こどものとも

うみじじい

菅(かん) 瞭三(りょうぞう) さく



なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

こどものとも 521号 月刊予約物語絵本 1999年8月1日発行 福音館書店 〒113-8686 東京都文京区本駒込6－6－3 電話 販売部 03(3942)1226 編集部 03(3942)2082

印刷 製本 精興社



Published by Fukuinkan-Shoten, Tokyo, Japan. Printed in Japan by Seikosha Co., Ltd.

定価 380円 本体 362円

T1103779080385



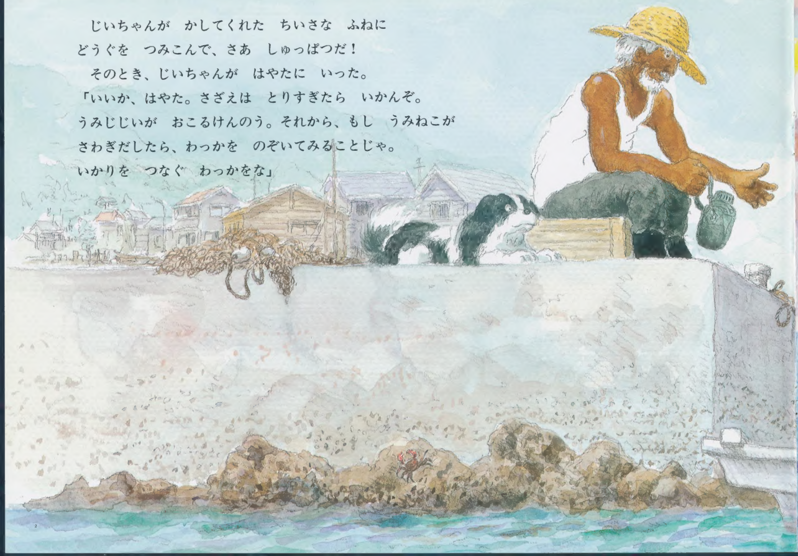
雑誌 03779－08

うみじじい

菅　瞭三 さく

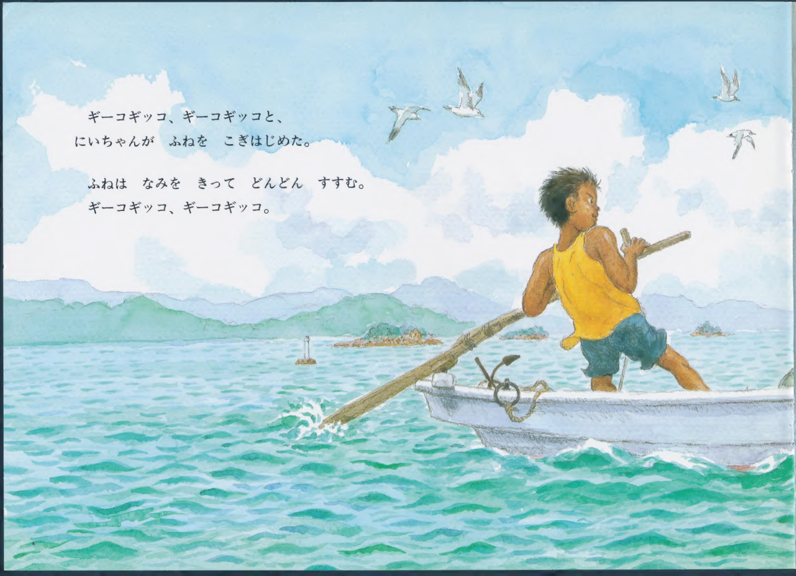


なつやすみの　あるひ、はやたは　にいちゃんと
いっしょに、さざえとりに　いった。



じいちゃんが　かしてくれた　ちいさな　ふねに
どうぐを　つみこんで、さあ　しゅっぱつだ！
そのとき、じいちゃんが　はやたに　いった。
「いいか、はやた。さざえは　とりすぎたら　いかんぞ。
うみじじいが　おこるけんのう。それから、もし　うみねこが
さわぎだしたら、わっかを　のぞいてみることじゃ。
いかりを　つなぐ　わっかをな」

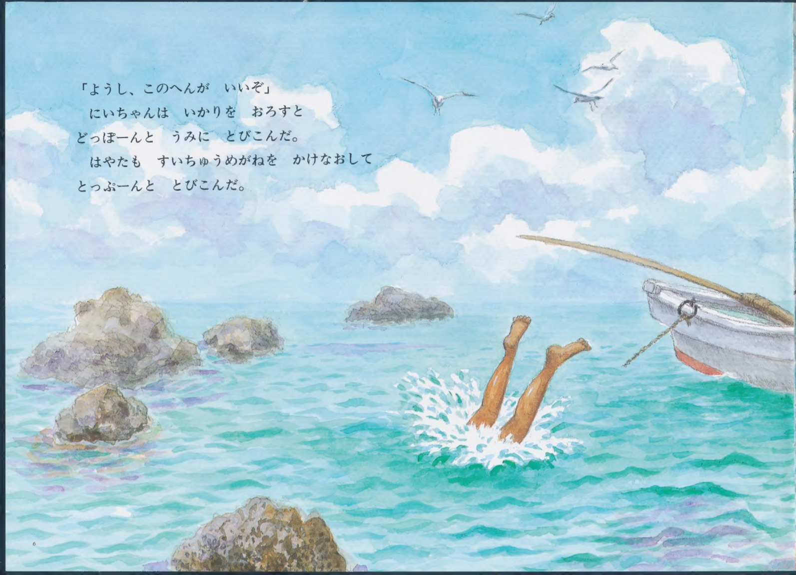




ギーコギッコ、ギーコギッコと、
にいちゃんが　ふねを　こぎはじめた。

ふねは　なみを　きって　どんどん　すすむ。
ギーコギッコ、ギーコギッコ。

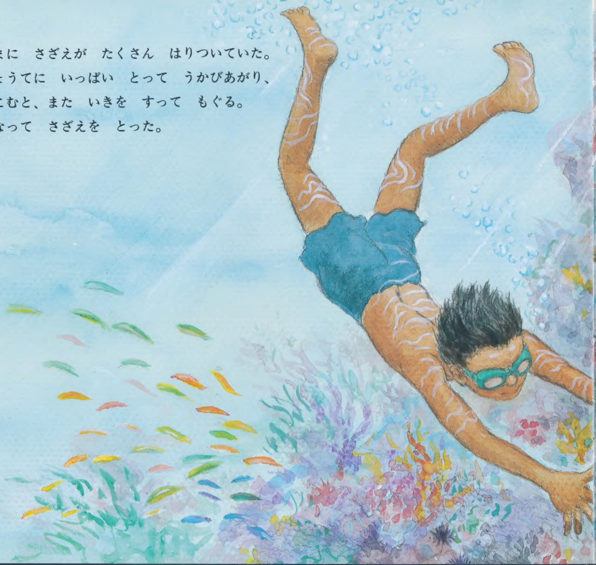




「ようし、このへんが　いいぞ」
　にいちゃんは　いかりを　おろすと
どっぼーんと　うみに　とびこんだ。
　はやたも　すいちゅうめがねを　かけなおして
とっぷーんと　とびこんだ。



いわと　いわの　すきまに　さざえが　たくさん　はりついていた。
つぎから　つぎへ、りょうてに　いっぱい　とって　うかびあがり、ふねの　なかに　ほうりこむと、また　いきを　すって　もぐる。
ふたりは　むちゅうになって　さざえを　とった。





「いっぱい　とれたね。にいちゃん」
「うん、たいりょう　たいりょう」
「あーあ、はらが　へったなあ」







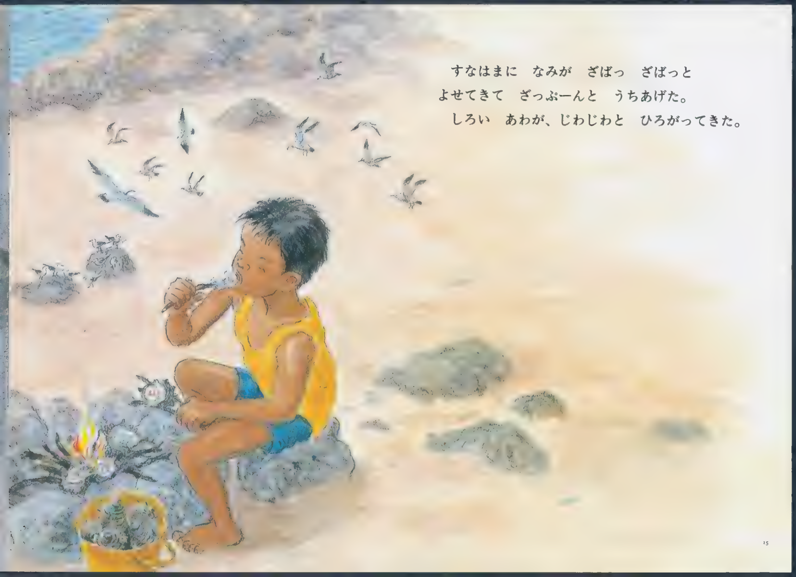
「よし、ひるねじまに　あがって　さざえを　たべよう」
にいちゃんは　ふねを　こぎだした。

しまに　つくと、はやたは　たきぎにする　こえだを　ひろってきた。
にいちゃんは　いしころを　あつめて　かまどを　つくると、
さざえを　やきはじめた。



しばらくすると、さざえが　じゅう　じゅうと
おとを　たてて　やきあがった。

「うまいね」もぐもぐ。
「うまいな」もぐもぐ。



すなはまに　なみが　ざばっ　ざばっと
よせてきて　ざっぷーんと　うちあげた。
しろい　あわが、じわじわと　ひろがってきた。



はやたは　もうひとつ　さざえを　たべようとした。
「あれ？　なかが　からっぽだよ。にいちゃん」
にいちゃんも　さざえを　てに　とった。
「おや？　こっちも　からっぽだ」
にいちゃんが　もっと　さざえを　やこうとしたとき、
とつぜん　うみねこが　ばさばさっと　とびたち、
ミャー　ミャーと　さわぎはじめた。

そのとき、はやたは　じいちゃんの　ことばを　おもいだした。
〝うみねこが　さわぎだしたら、わっかを　のぞいて　みることじゃ〟







はやたは　ふねに　むかって　かけだした。

ふねの　むこうがわに　まわって　わっかを　のぞくと、
「うわあ……、あれは　なんだ？」



　にいちゃんの　となりで、おおきな　かいぶつが
くちを　もぐもぐ　させている。
　ぬらぬらした　こんぶのような　かみのけと　ながい　つめ。
「うみじじいだ！」

　うみじじいは　またひとつ　さざえを
つめで　ひっかけて　たべようとしていた。







「にいちゃん！　うみじじいだ！」
　はやたは　むちゅうで　さけんだ。
　にいちゃんは　すぐに　はしってくると、ふねを　おしだした。
　ふたりが　にげだすのに　きづいた　うみじじいは、
おこって　すがたを　あらわした。
　かみのけを　さかだて、めを　かっと　みひらいて、
うなりごえを　あげながら　おいかけてくる。





うみじじいは　するどい　つめで　ふなべりを　つかんだ。
ふねが　ひきよせられ、にいちゃんの　ろが　とられそうになった。
「はやた！　さざえを　なげつけろ！」
にいちゃんが　さけんだ。





「えい！　えい！」
　はやたは　さざえを　どんどん　なげつけた。
　すると、うみじじいは　おおきな　てで
つぎつぎに　さざえを　うけとめた。
「もっと　なげろ、はやた！」
「ようし、えい！　えい！」



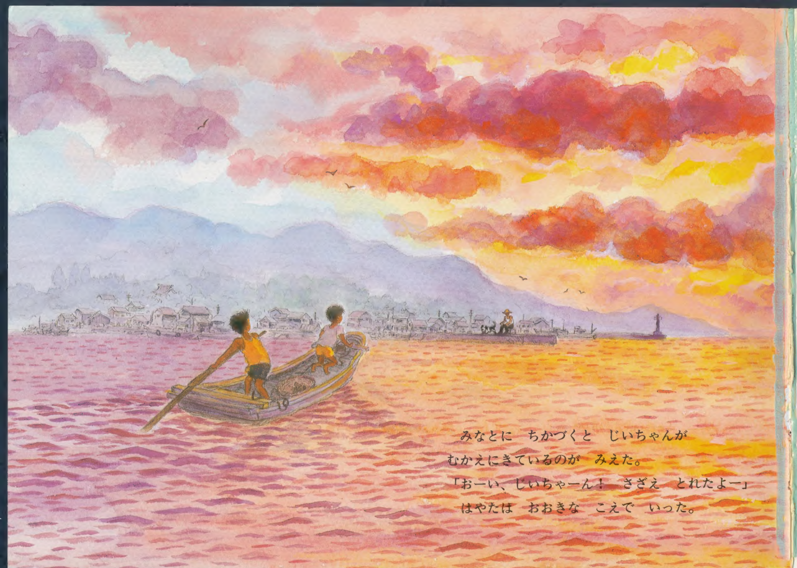
やがて、うみじじいの　りょうては　さざえで　いっぱいになった。
うみじじいは　それを　じいっと　みつめると、にんまりと　わらいながら
ゆっくりと　うみに　しずんでいった。



「ふう……、たすかった」と、にいちゃんが　いった。
はやたも　こくんと　うなずいた。
「さざえ、すこしになっちゃったね」と、はやたが　いうと、
「これだけあれば　じゅうぶんさ」と、にいちゃんは　わらった。







みなとに　ちかづくと　じいちゃんが
むかえにきているのが　みえた。
「おーい、じいちゃーん！　さざえ　とれたよー」
はやたは　おおきな　こえで　いった。